

物価上昇に負けない賃上げを！ 命守るための増員を！

3・14 四条烏丸宣伝行動



京都医労連は3月14日の日本医労連の産別統一行動に呼応し、医療機関・介護施設からの人材流出を食い止めるため、物価上昇を上回る賃上げに必要な財源確保を、診療報酬・介護報酬再改定などにより速やかに行うことを求め、四条烏丸（京都経済センター前）で署名宣伝行動を行い、京都経営者協会への要請行動も行いました。

京都総評の梶川議長、京都社保協の藤井副議長、福祉保育労の大西委員長が激励に駆けつけ、現場の実態告発リレー宣伝を行いました。宣伝後に、京都経済センターに移動してまとめ集会を行いました。参加者は50人、署名は28筆集まりました。



リレートーク発言内容（抜粋）

- 介護処遇改善政府が6000円、1桁足りない 新しく介護職員になる人がいない。この状況を改善するためにも、最低でも5桁、1万円以上は ベースアップが必要。
- 看護の仕事にすごく誇りを持っている。患者さんに安全・安心の医療を届けるためにも、看護師もっと増やしていったらいいといけな。
- 賃金が安いと人も集まってこないし、募集をかけても人が来ないという悪循環に陥っている。診療報酬を上げると、窓口の支払いが増えるというが、昭和の時代とかはサラリーマン窓口支払いゼロだった。そこを言うべきだと思う。
- 時間とお金をかけて国家資格である介護福祉士を取得したが、介護労働者の賃金はその労力に見合っていない。若い人に介護の魅力を知ってもらい、介護の仕事を選んでもらうために、介護労働者の大幅な仕上げが必要。
- 日本医労連看護職員労働実態調査では、8割が慢性疲労を抱えながら働いている。この間、看護師の離職は歯止めが利かないほど増えている状況。人手不足とそれによる過密労働によって、十分に行き届いた看護が困難になっている状況を、私たちはやはり変えたいと思う。

京都経済センター d e まとめ集



宣伝後に京都経済センターに移動して、まとめ集会。午前中に行われた京都府要請の様子を参加者で視聴、坂田書記長からは、医労連春闘の状況・京都医労連加盟組合の統一行動の報告がされ、「今春闘、ベアは当たり前。みんなで必ず取りに行こう」との訴えがされました。参加者からは、「初めて参加した。社会に訴えていくことは大事とわかった」「着ぐるみが良かった。次回は着たい」などの感想が出され、最後に八木副委員長の団結がんばろうで終了しました。参加された皆さん、大変お疲れ様でした！